

科目名	生命医薬科学特論	選択	1単位
-----	----------	----	-----

◎責任教員

担当教員	◎教授 細山田 真 講師 富岡 直子						
------	-----------------------	--	--	--	--	--	--

開講年度	2019年度	配当年次	1～4年	配当学期	前期	授業方法	講義
------	--------	------	------	------	----	------	----

授業の概要	生物学において、薬学部の学部教育で扱いが少ない領域として発生生物学が挙げられる。本授業では教科書を準備学習に用い、参考書の内容を日本語で講義することにより、幹細胞の分化誘導による再生医療等の文献を読む際に基礎知識として求められる発生生物学の全体像を習得してもらう。
-------	--

授業の到達目標	発生生物学における各キーワードを概説できることが本授業の到達目標である。
---------	--------------------------------------

授業計画	回数	担当者	行動目標
	1	細山田 真 教授	脊椎動物の発生について概説できる。(教科書1章、2章)
	2	細山田 真 教授	形態形成について概説できる。(教科書4章)
	3	細山田 真 教授	生殖細胞と性について概説できる。(教科書5章)
	4	細山田 真 教授	細胞分化と幹細胞について概説できる。(教科書6章)
	5	細山田 真 教授	器官形成について概説できる。(教科書7章)
	6	富岡 直子 講師	神経系の発生について概説できる。(教科書8章)
	7	細山田 真 教授	成長、がん、老化について概説できる。(教科書9章)
	8	細山田 真 教授	再生について概説できる。(教科書10章)

事前事後学修の内容およびそれに必要な時間	各授業の前に教科書の該当する章を読み、内容を把握してくること (60分) 授業後は授業資料を利用して復習しておくこと (90分+試験前30分)
----------------------	--

教科書	発生生物学 生物はどのように形づくられるか L.Wolpert 著 大内淑代・野地澄晴 訳 丸善出版 2013
-----	---

参考書	ウォルパート発生生物学 原書4版訳 武田洋幸・田村宏治 監訳 MEDSI 2012
-----	---

成績評価の方法および基準	試験100% 8回の授業終了後、9コマ目で筆記試験を行う。授業資料、教科書、参考書は持ち込み可。合格基準は60%とする。欠席については、2回目以降について1コマ当たり5点減点とする。遅刻早退は不問とする。
--------------	---

その他履修上の注意事項	試験に対し、採点答案の返却によりフィードバックを行う。 この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。
-------------	---